

政策・制度の視点からみた 観光と地域交通に関する課題

第67回運輸政策セミナー

「観光と地域交通 ～ポストコロナの時代を見据えて～」

2020年11月30日

話題提供者 大井 尚司

(大分大学経済学部門／「観光と地域交通に関する研究会」委員)

COVID-19の影響（観光）

• Go ToトラベルがGo Toトラブル？

宣言解除前に先行して検討

事業者の持続可能性が危うい中「後のこと」を考える？

クーポンの発行遅れ、GoTo加盟店が限定

「復興割」の苦い経験再来？：終了後反動で需要急減

COVID-19対策コストの負担増：

収容定員減（食事、浴場）、対策備品、清掃等
予算不足で割引率低下（のちに国費を追加支出）

👉 「残しておく」手立ての前に「皮算用」？

感染拡大の動きとの相反：止まる前に流行拡大？

COVID-19の影響（交通）

- **収益源の都市間輸送が壊滅状態**

高速バス、空港リムジン、特急列車 → 減便・運休継続

JR： 6月20日前後を底に復活 → 11月から再減便

バス： 復活のめどが立たないものが多々

航空： 国際線は全滅に近い 国内線はビジネス需要激減

- **地域交通： 補助する原資が枯渇し瀕死に近い**

テレワーク・リモート授業 → 通勤通学輸送を押し下げ

内部補填の原資がない状態：貸切・長距離輸送の低稼働

運転士不足： 貸切の需要減で余りも

自動車・自転車へ移動が転換 ← 公共交通は意外と安全だが

日本の地域交通の抱える課題

— 習慣的にも体力的にも『守戦』で限界 —

- **需要減 + 事業者疲弊**

少子高齢化 + 自動車化での慢性的な需要減少
従業者確保が慢性的に困難：現業も、計画部門も
コロナが追い打ち：外出自粛、観光自粛

- **リスクマネジメントへの対応**

災害やイベントリスク対応に耐性がない
資金プールも投資も困難 + 支援策が乏しい

- **ニーズ多様化と政策への対応**

ステレオタイプの需要を満たすので精いっぱい
政策ニーズ対応は補助金範囲内：先行投資は困難
計画部門（マネジメント）の人材不足

日本の観光の抱える課題（移動関連）

• 観光地側の情報発信の課題

「ホームページ」「パンフレット」依存は古い：いまや最後に使われる手段

SNS：ないよりはいいが、発信しているコンテンツ次第
発信している内容に「移動」の扱いが雑

「クルマで〇分」＝使えない人には「ここは行けない」
食い違う内容＝発信元が違う、更新や連携ができていない

• 観光戦略の今後：移動に関する施策の乏しさ

「自治体（よくて地域）単位」では予算も移動も出せない

「無理に観光地化」？：移動に関するインフラ不足が問題に

海外DMOは「移動」を重要要素・収益源に

－「移動」があつて人が来る：そこがダメならば客は不満

MaaSの考え方を観光・交通に活かす

- 「目的」から「必要な要素」へ、の転換
「観光行動」「移動」の流れにあった情報提供：
「行きたい」→詳細は？／どう行く？（要素）→検索→手配
- 競争相手は「隣の家」ではなく「全世界」
「行きたい場所」選択は狭い地域間競争ではない
ネットベースである以上全世界が競争相手：その土俵に乗る
- 「トータルプロデュース」「ワンストップ」「簡単・単純」：縦割りからの脱皮（制度も運用も）
探す・手配するだけで疲れるのではカーナビに負ける
デジタル化でややこしくなるならばアナログでもよい
- 「全体最適」：観光と交通両方支援を
流れ丸ごと囲い込めば、観光地としても観光産業としても勝利
どこかだけが勝とうとする限り、地域としては「儲からない」